



## 第2回 (仮称)遠軽豊里 IC 周辺施設基本計画検討協議会 議事概要

※ 事務局の資料説明については省略

### 1.開会

- 体育協会会長の改選に伴い、佐渡淳道会長が新たに委員になった。

### 2.現地確認

- ロッジ及び周辺の建物、駐車場、高さなどについて確認。

### 3.話題

(事務局説明)

- 第1回協議会の意見のキーワード及びキーワードに関係する道の駅などの紹介。
- ロックバレースキー場の状況。(現地確認を行ったため省略)
- スキー場の夏利用事例の紹介。

(意見交換)

#### 施設イメージ

- 子どもがたくさんいたり、スキー靴で音が鳴る状態だとホッとできないのでは。
  - 高低差を上手に使いゾーニングすることが考えられる。
  - 他にも駐車場と建物の距離、大会の時の状況、スキー授業での利用などを考慮することが必要。
- 防災拠点として考えたい。
- EV 充電器の設置については、丸瀬布、白滝も検討したい。
- EV 充電器は 2~3 機ないと、利用中に待ち時間が長くなってしまう。
- 例えばガンダムを設置など何か目玉になるものが欲しい。

#### 物販

- オホーツクの玄関口であることを考えると海産物の販売を行いたい。
- 農産物はロットの大きい販売を行うのではなく、個人に頼んで商品の確保をすべき。例えば、規格外品を廃棄しているが利用できないか。
- 漁業協同組合が協力してくれるのであれば海産物の販売は魅力的。ただ、冷蔵施設などに費用がかかる。
  - 「オホーツク」でイメージされるものが海産物であることから取り扱う意味がある。
- ケーキや小物などハンドメイドのものを販売することが考えられる。展示や販売を通して「作る(生産)」→「売る(販売・消費)」の物販の循環、「地元のつくる人」→「来訪する買う人」人の循環などの場として活かしたら良いと思う。
  - 農産物以外にも地域として販売できるものがあるということがわかった。
- 限定性のあるものを販売したい。
- 海産物は発送してもらうことも考えたい。



## スキー場

- スキー場の利点・今ある特徴を伸ばすことが必要。冬の集客のために夏に情報提供をする。
- スキー場と道の駅を一体化することがイメージできない。
- 夏でも山頂に行って楽しむことを考えたい。
  - リフトを1日稼働するとスタッフ含めておおよそ10万円程度かかる。
  - 夏は熊がいるがユニットハウスの設置が考えられる。休憩や星空観察などに利用可能でもある。
- 山腹に牛や羊がいる構造物が何も無い風景が良いのではないか。
- ロッジの前に生き物がいるだけで癒される。
- スノーモービルでバナナボートを引くなどのアクティビティは、平面部が狭いためできない。
  - イベントをどれだけできるかで集客が変わる。
- ナイター営業を山頂まで伸ばすと利用者が増えると考えられる。道の駅併設なので夜遅くまでの営業に耐えられると考える。

## 情報発信

- 網走管内の情報を発信すべき。

## その他

- 予算が見えない。
  - 本日の協議会は、導入する施設などについて検討することを目的としているため、予算にしばられない議論をしたい。最終的には施設などの優先順位を決めることが必要。
- 店舗を入れるのにも、誰がどのようにして募集するのか考える必要がある。
  - 協議会では基本事項の整理を行うが、その後の運営などについては継続して議論していくことが必要。

## 4.閉会